

田辺（和歌山県）

熊野米プロジェクトが優良事例に 近畿ディスカバー農山漁村の宝に選定

田辺商工会議所はこのほど、同所が支援する地域の地産地消活動「熊野米プロジェクト」が、農山漁村活性化の優良事例として近畿農政局「近畿ディスカバー農山漁村の宝（第2回）」に選定されたと発表した。同プロジェクトは、熊野と呼ばれる田辺市や周辺地域で生産するコメ「熊野米」で郷土料理をつくって食べようという取り組み。精米販売の老舗、株式会社たがみや地元の生産者らが中心となって推進し、2010年に国の農商工連携事業の認定を受けている。



▲選定証授与式にはプロジェクト代表、たがみの田上雅人専務（前列中央右）と山田隆生指導員（同左）らが出席

という新品種のコメを梅の調味液を使って雑草の生育を抑え減農薬で栽培した、梅の産地・紀南地域ならではのコメ。もちもちとした食感と甘みが特徴だ。これを使った商品として、これまでに米粉のパン「熊野米パン」や「甘酒」などが開発されている。熊野米パンは、災害時の非常食になる缶入りの米パン。甘みのある芳醇な味わいで長期保存が可能だ。甘酒は、たがみが和歌山大学と共同開発したものの。地域の醸造会社の協力を得て製造し、商品パッケージは学生とデザインを考えた。



▲熊野米と、熊野米を使って開発した商品

昨年12月11日には京都市内の近畿農政局で選定証授与式が行われ、プロジェクトの主催者である事業者らと同所経営指導員が式典に出席。同所は、「この受賞を機に、同プロジェクトのさらなる発展を支援していく」と話している。

平田（島根県）

地元高校と連携協定 若者を育む地域づくりを目指す

平田商工会議所は創立70周年を記念し、今年度「母川回帰」をテーマに地域と連携した多彩な事業を実施している。同事業は、平田地域で生まれ育った若者がまちを出ても将来ここに戻りたいと思える魅力あるまちづくりを目指すもの。その一環として高校生のアイデアを生かそうと、地元の島根県立平田高校と連携協定を締結した。

昨年11月9日には同校で、2年生による地域活性化に関する研究発表会を開催。生徒らはポスターセッション形式で集まった市民らに研究成果を発表した。その後、コミュニティデザイナーの山崎



▲高校生がポスターセッション形式で研究発表

亮氏が「いつか帰る君たちのために『母川回帰』」をテーマに講演。これらの模様はケーブルテレビを通じて平田地域にライブ上映された。当日夜は、記念式典および交流会を開催。同校生徒による地域活性化への研究発表・提案、内田晃市副会長による若者応援宣言が行われ、同校坂根昌宏校長と大谷厚郎会頭との間で協定書が交わされた。

研究発表に当たり、生徒らは同所と共にフィールドワークを実施。グループに分かれ、イベント企画・運営などへの参加も通してまちづくりを検討した。また出雲市がブランド化に取り組む地元産の小豆を使ったスイーツ



▲アンテナショップで高校生らが小豆スイーツを販売

を使ったスイーツ開発にも参加。12月8～9日には東京・日本橋の島根県のアンテナショップで生徒らが企画した菓子を販売した。高校生との連携は、協定に基づき来年度以降も継続する予定だ。